

# 令和元年度

## 草津市文化振興審議会 施策評価部会 会議録

▼日時:

令和元年 12 月 27 日(金)14:00-16:30

▼場所:

草津市役所 6 階教育委員会室、8 階大会議室

▼出席委員:

辻委員、中川委員、五十川委員、伊庭委員、梅山委員、中畠委員、中村委員、田中委員

▼欠席委員:

無

▼事務局:

教育長、居川部長、山本副部長、相井課長、山本課長補佐、松岡主査、北村主任

▼傍聴者:

非公開

### 1. 開会／趣旨・概要説明

---

【部長】

今年度の施策評価部会は、草津市美術展覧会の見直しがテーマとなっており、本日は、部会での審議を行っていただく前に、草津市美術展覧会実行委員会との意見交換会を開催させていただきたいと考えております。

前回の審議会全体会におきまして、市美術展覧会の見直しにあたり、実行委員会のこれまでの御苦勞を踏まえ、市美術展覧会の成果や課題等について意見交換の場が必要ではないかとの御提案をいただき、市におきましても、専門的な見地、客観的な目線により、市美術展覧会を見直す必要があると考えましたことから、このような場を設けさせていただきました。

市美術展覧会は、昭和 38 年の第 1 回開催以来、実行委員会から御意見をいただくという形で実施し、長きにわたり多くの市民・県民が応募できる公募展として、地域の芸術文化の振興に寄与してきたものと考えております。

しかし、来場者および出品者の減少、固定化などの課題があり、さらには、展覧会の内容や運営方法などについて、来場者や出品者の方々から様々な御意見や厳しい御指摘を頂戴しております。

市では、現在、草津駅周辺における中心市街地活性化の拠点施設として、(仮称)市民総合交流センターの建設を進めており、展示機能を設けた会議室を整備しておりますことから、令和3年度の美術展覧会からは、当該施設において開催できるよう準備をしております。

会場移転を機に、市美術展覧会がより良い展覧会となるよう、審議会や実行委員会の皆様のお力添えをいただきたいと考えており、本日の意見交換会および審議が有意義なものとなりますよう御協力をお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。

**【事務局】**

＜資料に基づき説明＞

## 2. 施策評価部会について

---

**【事務局】**

＜資料に基づき説明＞

**【A 委員】**

資料等について、質問はないか。

**【H 委員】**

受賞者の居住地が載った資料はないのか。何かで見て市外の方が多く驚いた記憶がある。

**【事務局】**

本日の資料になっている目録には掲載していない。展覧会賞の受賞者を発表する広報くさつの記事には居住地を掲載していた。

**【A 委員】**

受賞者の居住地が分かる資料はないか。

**【事務局】**

配布する。

**【A 委員】**

審査員の選出に市は関わっていないのか。

**【事務局】**

実行委員の推薦を受け委嘱しており、関与していない。

**【A 委員】**

県展はどうか。

【事務局】

同様に委員より推薦されているようだ。

【D 委員】

資料の中で実行委員と展覧会委員の使い分けがされているが、意味はあるのか。

【事務局】

特に意味はない。

【H 委員】

実行委員長が市長、副実行委員長が教育長になっているが、一般の委員から選出する方が良いと思う。

【事務局】

実施規則において定まっており、制定当時としては有効な方法であったのだと思われる。

【H 委員】

教育委員会の独立性を考えると、市長が前面に立つのは良くないのでは。

【A 委員】

この後、意見交換会に移るが、実行委員会にも同じ資料を配布しているのか。

【事務局】

同じものを配布している。

## 2. 意見交換会

---

【審議会】

我々は、草津市が公金を出している事業に対して評価する立場にある。御理解いただきたい。

教育委員会が定めている実施規則では、実行委員の役割が明文化されていないので、市民から見えづらい。会長が市長、副会長が教育長と決められているのはどうなのかという意見も審議会の中である。どうすれば実行委員の皆さんが動きやすくなるか。

任期について、草津市の審議会等では、再任は2回までという決まりがある。そういう議論もあるので、どうすればいいのか。交代が無理なのであれば、民間の組織に移行するしかない。どうすれば上手くいくか知恵をいただきたい。

実行委員の前任者が後任者を推薦するのでは、より若い方が参画しづらくないか。他の自治体でも同じ悩みがあるので、御意見を頂きたい。

### ①運営体制について

#### ▼会長が市長、副会長が教育長ということについて

- ・受賞者からすると、組織、運営がしっかりしているという印象を受けるのではないか。
- ・組織に学識経験者が加わると良いのではないか。
- ・運営に直接関わらないのであれば会長等も交代いただいても良いのでは。

#### ▼実行委員の任期について

- ・4～5年で変わるのはいいこと。
- ・文化とは、長い年月をかけて養われるもの。審議会と同様に考えるのはどうか。
- ・定年があって然るべき。個人的には75歳が限度。
- ・最低10年15年やらないと流れが切れる。自らの成長と共に展覧会を眺めている。
- ・すぐに交代すると知恵が培われない。
- ・長いことやると審査員と癒着があるのではと疑われる。何年かで変わることが必要。
- ・高齢でも元気な方はいらっしゃるので、年齢じゃなく期間で交代するのが望ましい。
- ・3年で交代すると全体を見渡せなくなる。審査員の任期よりも長い方が運営は上手くいくのでは。
- ・20年近く務めてきたので代わって欲しいと思っていた。

#### ▼実行委員の役割

- ・作品の審査と書いてあるが、実行委員はサポートするのみ。
- ・審査員が批評会を欠席される場合に、意見を代わりに伝えることがある。
- ・役割を明文化して欲しい。実行委員が次の実行委員を選ぶということも書かれるべき。

#### ▼実行委員の選出方法について

- ・若い方は昼間の会議に出席できるのか。
- ・作家とイコールでなくてもいい。自分で作らなくても、知識がある人であれば委員になっていただいてもいい。

### ②審査体制について

- ・実行委員と同じ会派の人が審査員を務められることがある。
- ・審査員と癒着があると思われるのが残念。2人にしても賞を半分ずつ選ぶということにならないか。1人の先生が選んでくれたらいい。
- ・大きく見直す中で、その中で審査員、実行委員の体制を見直すきっかけになれば。
- ・他市との比較が基本にあるのは反対。
- ・工芸は、立体と平面を交代で選んでいる。複数人になるのであれば嬉しい。
- ・洋画は、日展系、独立系を交代させている。県外の先生を推薦している。
- ・日本画は、3年毎に会派を交代させている。

### ③部門について

- ・日本画と洋画を平面に、工芸と彫刻を立体にまとめるという話もあるが、一緒にすると1

人の審査員が2つの分野を見ることになる。

- ・工芸は沢山の種類が出てくる。平面、立体と決めてしまうとかえって不自由。審査員が沢山いるとお金がかかる。
- ・デザイン、映像作品に魅力を感じる。若い方も参加しやすいのでは。
- ・初心者用の部門を設けては。

#### ④他の公募展との差別化・草津市美術展覧会の独自性について

##### ▼テーマ展について

- ・テーマがあれば個別賞を選ぶという形にすればどうか。
- ・美術協会で琵琶湖というテーマで作ったことがある。時々であるといいが、毎年は面白くない。
- ・テーマを設けるのであれば、テーマ部門を設けて。
- ・テーマ展については、県レベルで既にやられている。テーマを決めることで出品者が減ることを危惧する。
- ・できる作家とできない作家がいる。

##### ▼その他

- ・公民館（市民センター）講座を復活させてほしい。講座を受けた方が展覧会に出品するような流れになれば。
- ・賞をもらって、作品もだんだん大きくなってというのが理想。年を重ねても出品できるような展覧会であってほしい。
- ・草津には青少年を支援する施設があまりないので作ってほしい。
- ・県内の各市町で特色が出ている。栗東市は抽象画が好まれる。草津市は大きな作品が出せる。水彩画といえば草津というイメージもある。出品者が傾向を作っている。こちらからあえて言う必要はない。
- ・差別化を図るのであれば、イベントを設けないと。日本画を中心に盛り上げますとか。写真の中から何かを選ぶとか。出してる方に乗っかってもらえれば。
- ・アンダー〇〇賞を作ると若い方も出すのでは。高校にも声を掛けていければ。守山では、アンダー25 賞を設けて若い方の出品数を伸ばした。県は地域を回って作品を集めている。栗東は若い方の出品料に減免があったと思う。
- ・他市では一人2点出品できるところもある。
- ・展覧会賞の副賞の金額を上げてはどうか。予算が足りないのであれば目録に広告を載せては。
- ・創作性のない模倣作品、パッチワーク等を受け入れられるべきか。
- ・文化祭と一緒に開催すれば盛り上がる。

### 3. 協議

---

※意見交換後、実行委員退出

**【A 委員】**

まずは、運営体制について意見はないか。

**【H 委員】**

会長、副会長は市長、教育長でなくても良いのではないか。

**【A 委員】**

市長から賞をもらえるほうがありがたい。

**【E 委員】**

会長には、見識のある方になっていただければ。

実行委員会であれば、通常は実行委員長と呼ぶのでは。そうであれば、なおさら市長はふさわしくないように思う。

**【D 委員】**

市展委員なのか、実行委員なのか。標記がバラバラなので統一いただきたい。

**【事務局】**

各市町でどのように標記されているか、調べておく。

**【B 委員】**

あいちトリエンナーレの実行委員長は知事。副実行委員長は市長。プロデューサーを毎回公募で変えている。草津市もプロデューサーを決めるべき。学識経験者を入れるとはそういう意味だと思ふ。

**【A 委員】**

市長を入れるとするなら名誉顧問だろう。

任期についてはどうか。

**【E 委員】**

1年任期であるから逆に長引いてしまっているのでは。

**【B 委員】**

審議会の任期は2年。審議会に準じて2年×3回を限度にしてはどうか。

審査員は何年か。

**【事務局】**

審査員は最大3年。

**【B 委員】**

実行委員の任期とずれる。審査員の選出方法と関わるので実行委員会と相談して欲しい。

**【A 委員】**

プロデューサー制になれば、審査員の選定も相談しないとイケない。少なくとも相談して了解を得るべき。

**【B 委員】**

そういったことを会長である市長が全部決定するのは無理がある。

**【A 委員】**

審査員は最低2名必要。合議制で決めるべき。1人でやるなら、もっと責任を明確にしないと。少なくとも経歴は必要。どんな人か分からない。

**【H 委員】**

アンケートを見ていると、公平に運営されていると答えているのが25%。

**【A 委員】**

審査員にもっとスポットを当てて。

**【B 委員】**

報酬にもよる。雀の涙では責任を持ってない。審査は命がけである。

**【H 委員】**

公開審査とはどのようなやり方か。

**【A 委員】**

審査会場に市民を入れる。そういうやり方を採用しているところも多い。

**【D 委員】**

洋画、写真、書は2人でいいが、工芸は多岐にわたりすぎるため人数が増えても一緒。全ての部門を一律にすることは難しいのでは。チラシに肩書をキッチリ載せるというのは襟を正すという意味でも必要。

草津展覧会は運搬業者が入っており、審査員に礼を尽くしていると感じる。他は審査員自ら運ばせている。

**【B 委員】**

先ほどの意見交換会では、テーマ展について、各部門で設定するか、全体で設定するか整理できなかった。

より若い世代にチャレンジするために、デザイン部門を設けてはどうか。

**【A 委員】**

食器でもデザインで出てくる可能性がある。イラストをデザインに含めても良い。抵抗があるとは思いますが、独自性も出るのでは。

**【B 委員】**

文化祭と美術展をどこで切るのか。

**【事務局】**

模倣ではなく、作家としてのオリジナル性を重視するのが美術展ではないか。

**【H 委員】**

湖南 4 市合同で開催してはどうか。部門を各市に振り分ける。

**【B 委員】**

他市と連携できるネットワークが構築されていないのではないか。

**【事務局】**

大学では、どのような分野が人気か。

**【A 委員】**

大学ではイラストが圧倒的に人気。しかし発表の機会がない。自分たちで展示場所を見つけている状況。

**【E 委員】**

新しい会場は広いのか。

**【事務局】**

5 階、6 階を合わせて今と同じくらいである。

**【D 委員】**

デザイン部門を導入するならワンクションが必要。そこから交流が深められれば。

**【A 委員】**

部分的に特色を出すやり方も良いと思う。部門に限ってテーマを決めるなど。写真、デザインは採用しやすいのでは。

**【事務局】**

イオンモール草津と協定を締結したので、展覧会でも連携を検討したい。

【A 委員】

一般の企業から協賛をもらうのは難しいか。

【事務局】

新聞社等から後援を得ている。目録への広告掲載も検討できれば。

【A 委員】

草津には製造業者もあると思うので、タイアップを検討して欲しい。

【事務局】

声がかかる状況を作っていきたい。

【H 委員】

会場に休憩できる椅子を設置して欲しい。

【事務局】

検討させていただく。

【B 委員】

議論の内容は、事務局と会長、副会長でまとめさせていただく。公共性を担保するためには、議論のプロセスを公開していく必要がある。

【A 委員】

出品する側も鑑賞する側も楽しめる展覧会になれば。

#### 4. 閉会

---